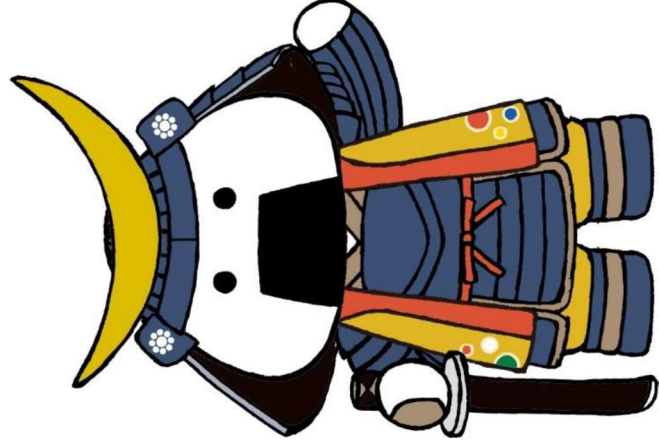


宿泊税を活用した今後の 観光振興施策について

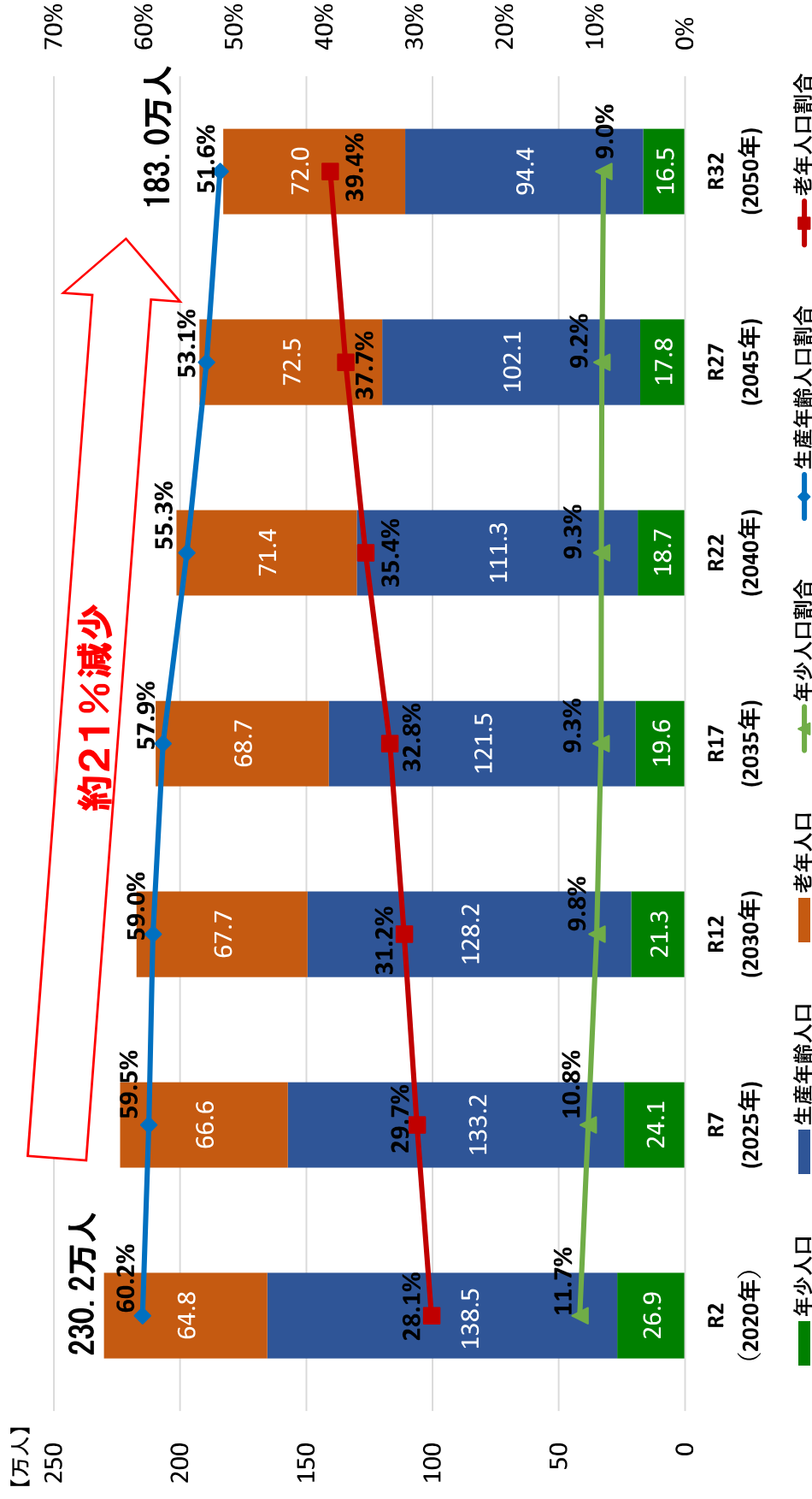


仙台・宮城観光PRキャラクター
むすび丸

1. 観光を取り巻く現状と課題 ①人口減少

ポイント ①

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計…2050年の宮城県の人口＝約183万になる見込み
- 生産年齢人口(15～64歳)及び年少人口(14歳以下)は、今後さらに減少
- 老年人口(65歳以上)は増加し、2050年の高齢化率は39.4%になる見込み



出典：日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）

⇒県内宿泊者のうち、県内在住者は全体の約2割程度。人口減少に比例して、県内在住の宿泊者は確実に減少する見込みであり、新たな顧客獲得が必要です。

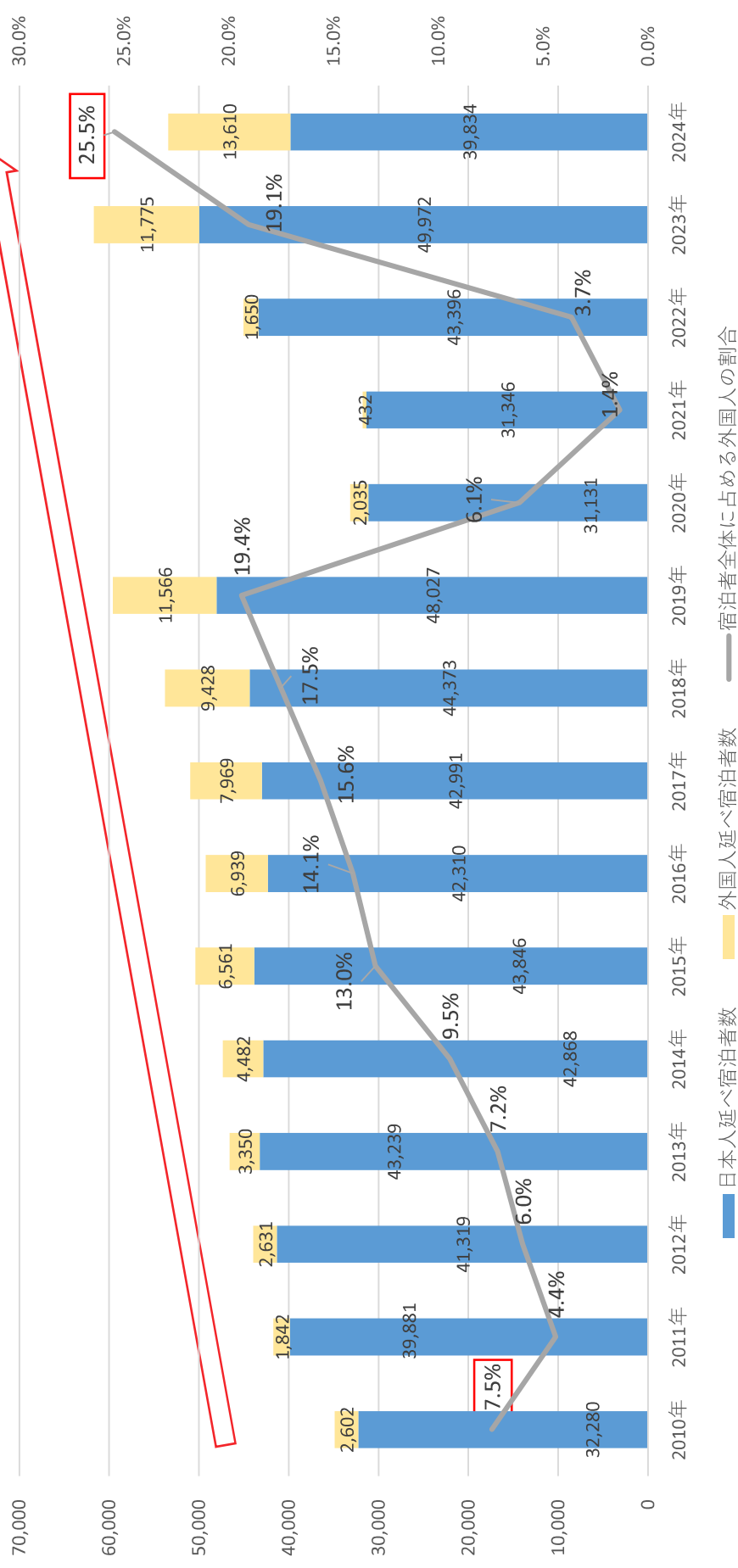
1. 観光を取り巻く現状と課題 ①人口減少

ポイント ①

○震災後の宿泊者数の推移を見ると全国的に日本人宿泊者数の伸びは鈍化、一方で訪日外国人の割合が増えている状況。

【万人泊】

外国人宿泊者数割合が約18%も増加



「宿泊旅行統計調査」(観光庁)より作成

⇒全国的に人口減少が進む中、国内に限られた需要をどのように取り込んでいくか、高付加価値化(観光消費額単価のアップ等)に向けた対応が必要です。

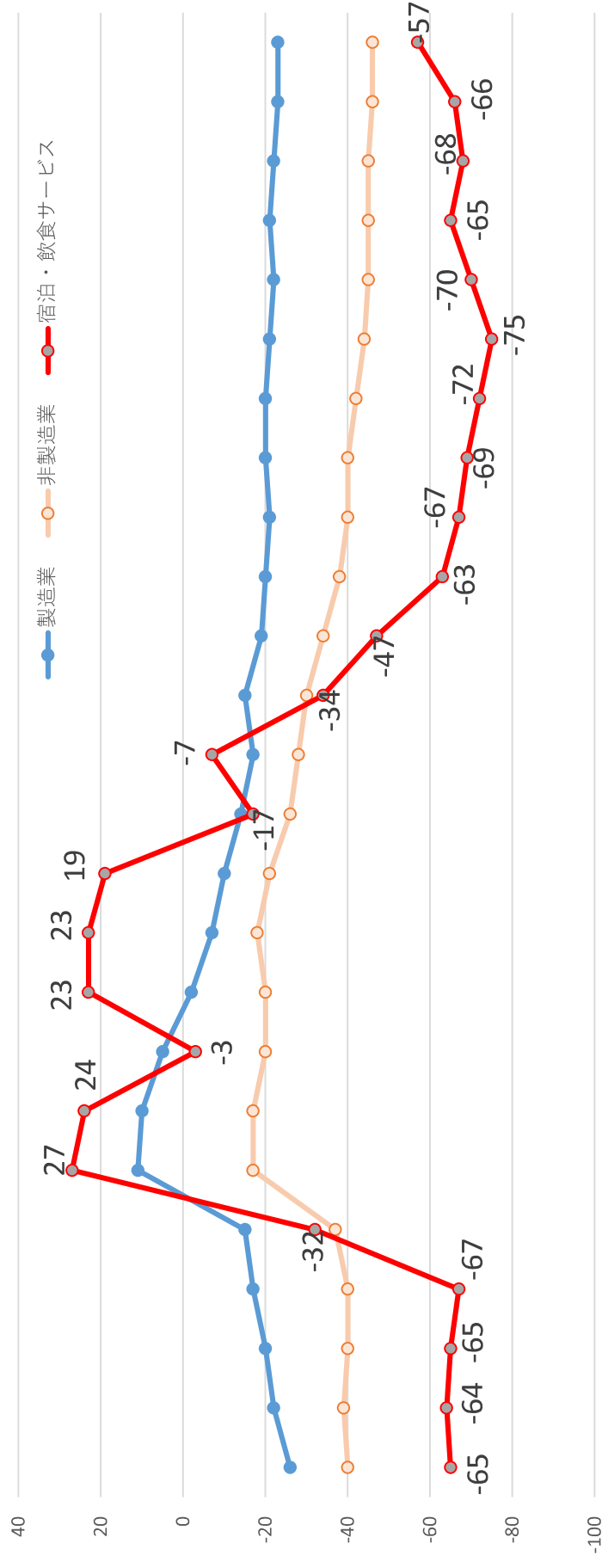
1. 観光を取り巻く現状と課題 ②人手不足

ポイント②

コロナ禍以降、宿泊業では他業種以上に人手不足が深刻な状況

企業の雇用人員判断D.I.の推移

【%ポイント】



3月 6月 9月 12月 2019年	3月 6月 9月 12月 2020年	3月 6月 9月 12月 2021年	3月 6月 9月 12月 2022年	3月 6月 9月 12月 2023年	3月 6月 9月 12月 2024年	3月 2025年
--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	----------

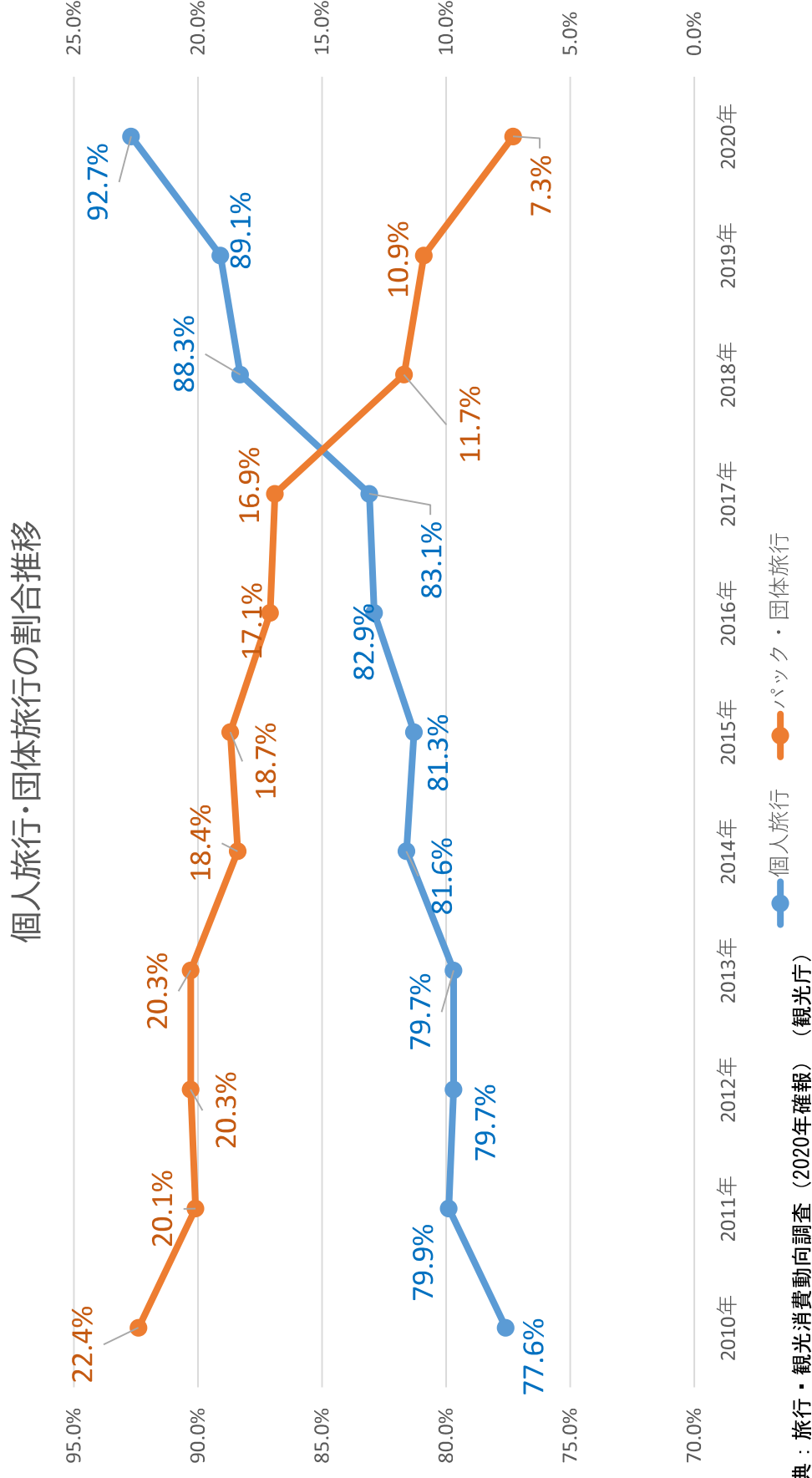
「全国企業短期経済観測調査」（日本銀行）より作成

⇒宿泊業の持続性、収益性を高めるためにも人手不足対策は急務となっています。

1. 観光を取り巻く現状と課題 ③旅行形態の多様化

ポイント ③

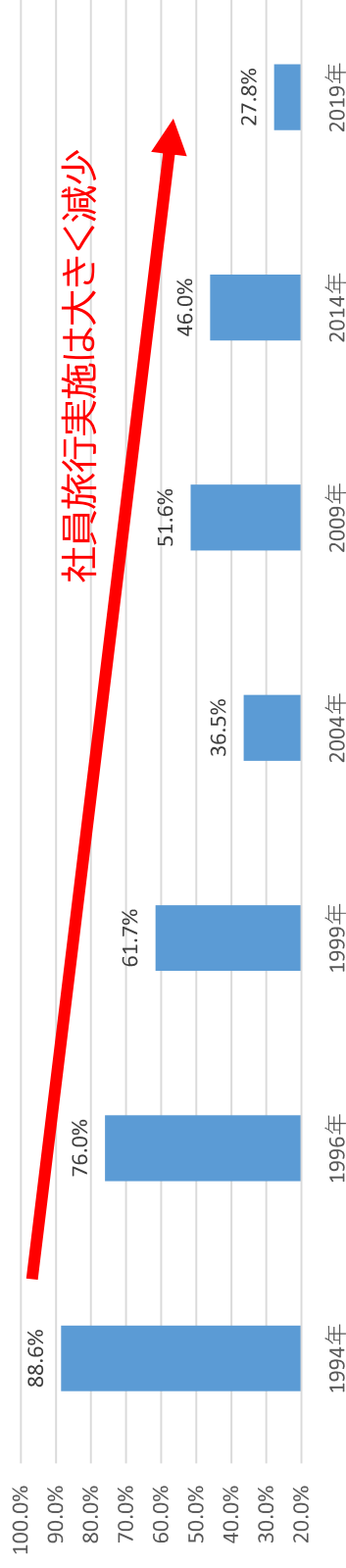
旅行形態、観光ニーズが多様化している。



⇒個人旅行者の増加など、多様化したニーズへの対応(観光コンテンツの造成等)が必要と
なっています。

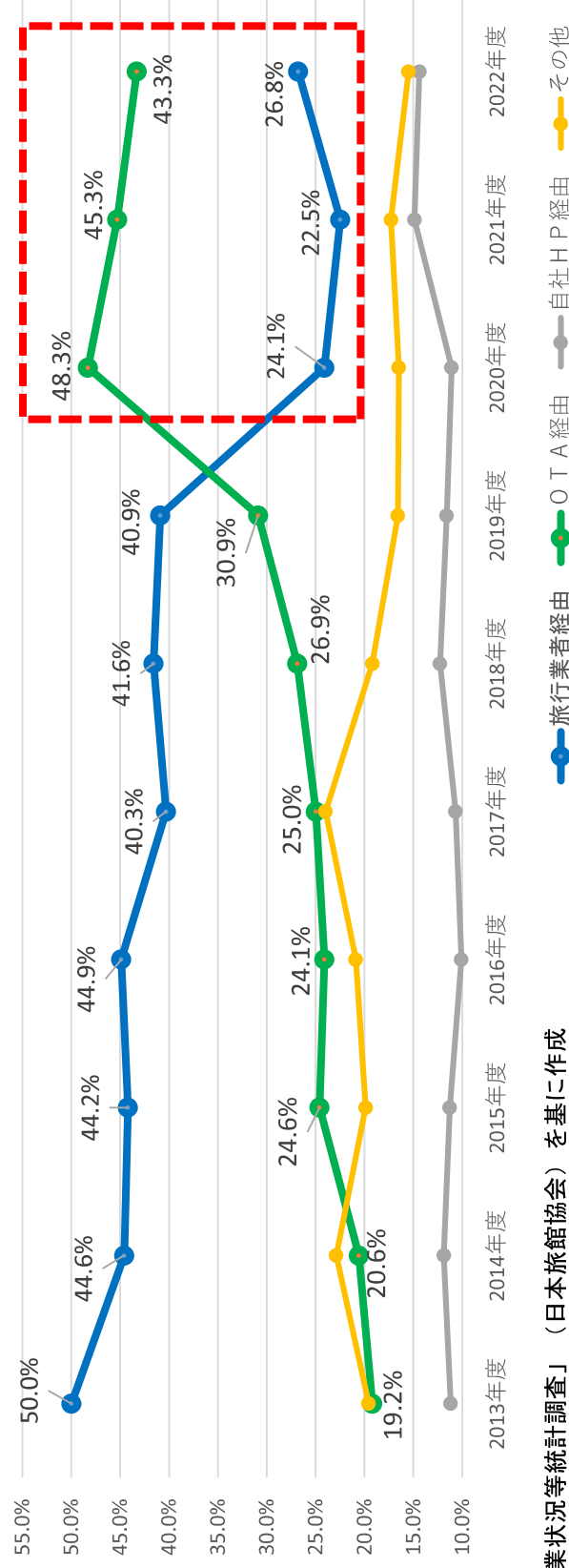
1. 観光を取り巻く現状と課題 ③旅行形態の多様化

社員旅行実施率



出典：社内イベント・社員旅行等に関する調査（産労総合研究所）

宿泊にあたっての予約経路



「営業状況等統計調査」（日本旅館協会）を基に作成

⇒柔軟に対応できる体制づくり、環境整備が急務となっています。

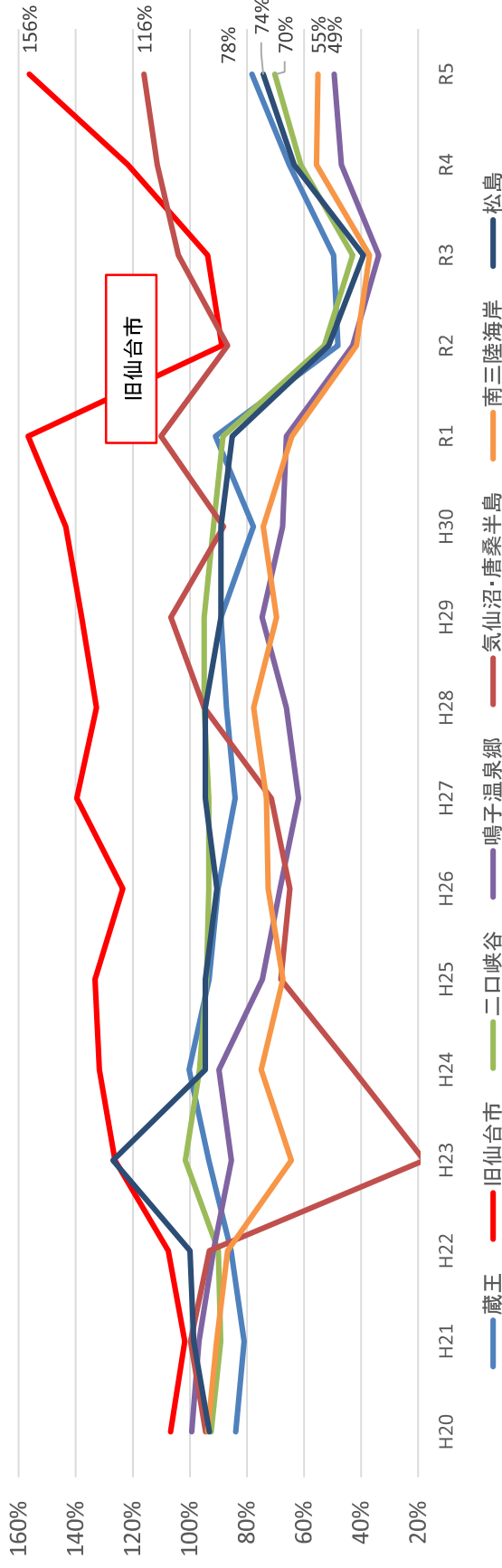
1. 観光を取り巻く現状と課題 ④宿泊観光客数

ポイント④

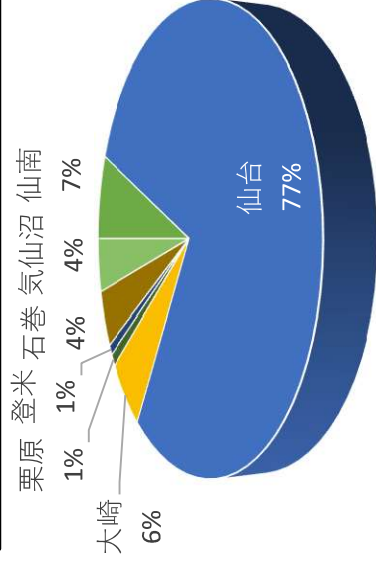
対H19年(H10年以降震災前までで最多)比で、「旧仙台市」(※)が156%と大幅増加
一方、仙台市中心部を含む「旧仙台市」以外は、蔵王【78%】、松島【74%】、二口渓谷(秋保、作並、奥新川)70%】、鳴子温泉【49%】と大幅に減少

宿泊者数の増加率(対H19年比)

(※)仙台市のうち旧秋保町、旧宮城町作並・奥新川・定義、旧泉市を除く。



R5圏域別宿泊者の割合



【参考:R5宿泊者数の対H19比】県全体115%、栗原58%、登米214%、石巻110%

⇒地域間で、宿泊観光客数に差が出ており、
今後は仙台など集客のある地域からいかに
県内全域に送客していくかが、持続可能な
地域主体の観光地域づくりを進めていく
上で大きな課題となっています。

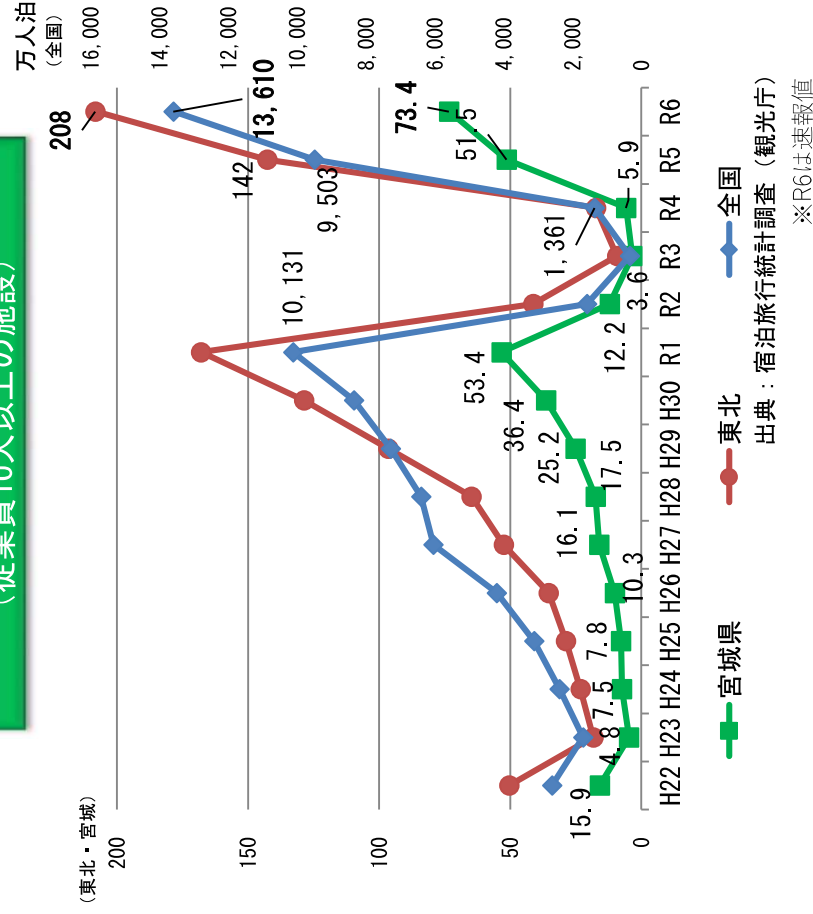
1. 観光を取り巻く現状と課題 ⑤インバウンド

ポイント ⑤

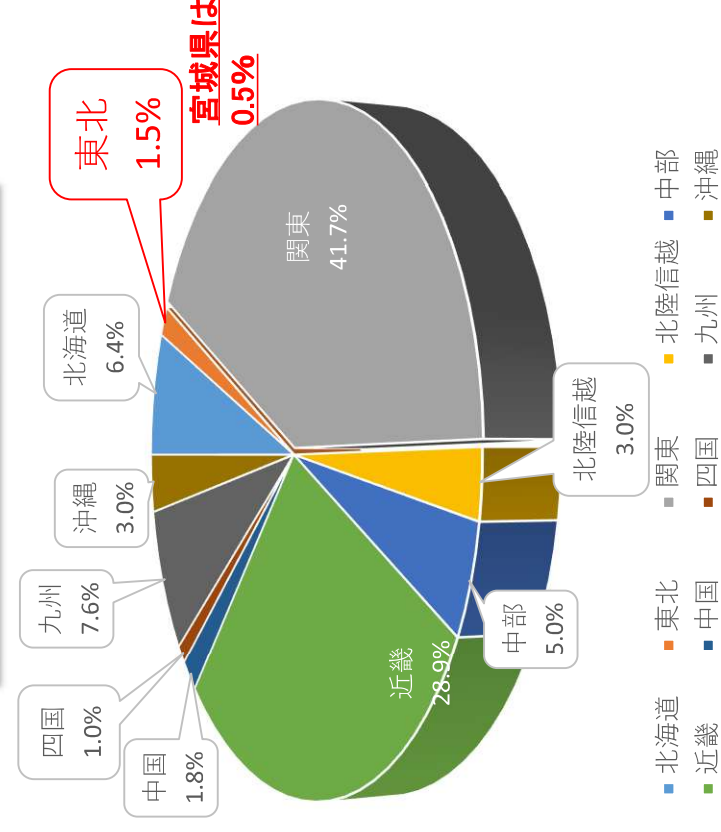
○訪日外国人宿泊者数については、令和5年に水際対策の緩和に伴い、51.5万人と、コロナ禍前の令和元年とほぼ同水準まで回復し、令和6年も、円安による日本への旅行需要の増加により、本県においても過去最高となる約73万人泊を記録する見込み

○一方で、全国の伸びに比べると低位となっており、全国におけるシェアも0.5%にとどまっている。

全国・東北・宮城の外国人宿泊者数の推移
(従業員10人以上の施設)



地区別外国人宿泊者数の割合

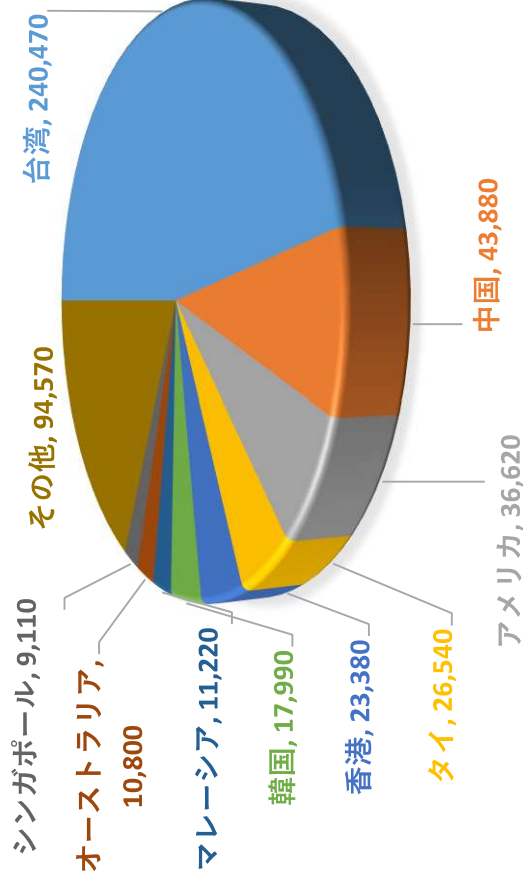


1. 観光を取り巻く現状と課題 ⑤インバウンド

ポイント⑤

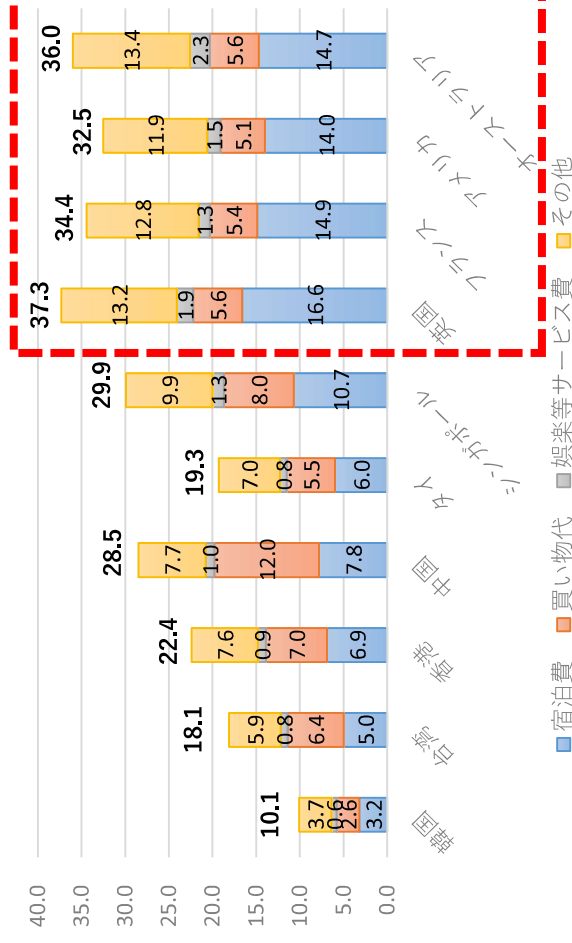
旺盛なインバウンド需要を十分に取り込めていない。
仙台空港との定期便のある台湾、中国からの訪日客が高い傾向にあるが、今後は購買意欲の高い欧米豪などからの誘客にも積極的に取り組んでいく必要がある。

外国人延べ宿泊者数(人)



出典：R 5 宿泊旅行統計調査（観光庁）

国籍・地域別消費単価(2023年)(万円)



出典：R 5 訪日外国人消費動向調査（観光庁）

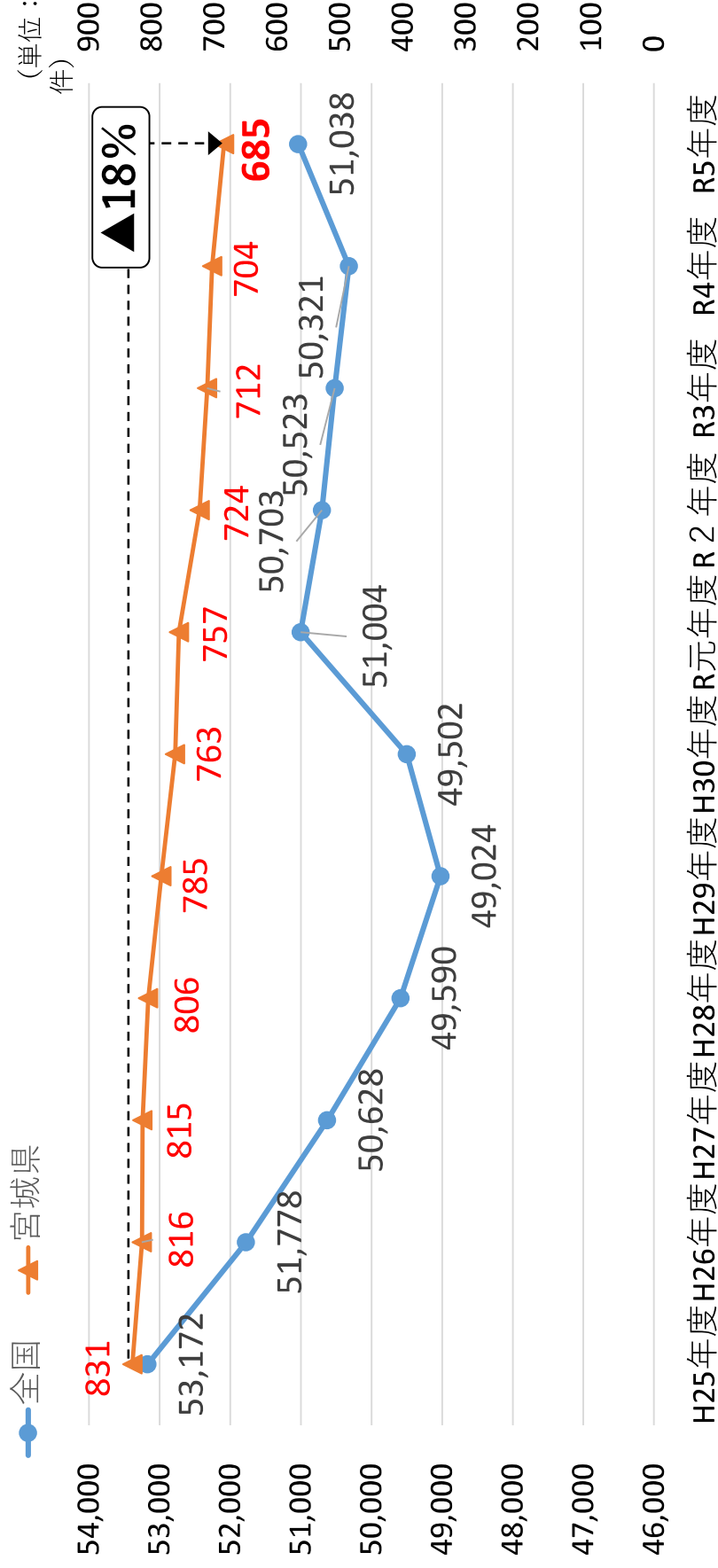
2024年の訪日外国人消費額が8兆円を超え、2023年の5兆3,000億円を上回り過去最高となった。これは、半導体や鉄鋼を上回り、日本の主要な輸出品である自動車に次ぐ規模になるなど、インバウンドの経済効果は大きくなっている。

1. 観光を取り巻く現状と課題 ⑥ 厳しい経営環境

ポイント ⑥

ホテル・旅館の施設数の過去10年間の推移をみると、全国では、平成25年度には53,172件あった施設は、令和5年度には4.0%減の51,038件まで減少した。
宮城県は、平成25年度には831件あったが、令和5年度には、18%減の685件まで減少しており、全国に比べ減少率が大きくなっている。

全国・宮城県のホテル・旅館の施設数推移(過去10年間)



1. 観光を取り巻く現状と課題 ⑥厳しい経営環境

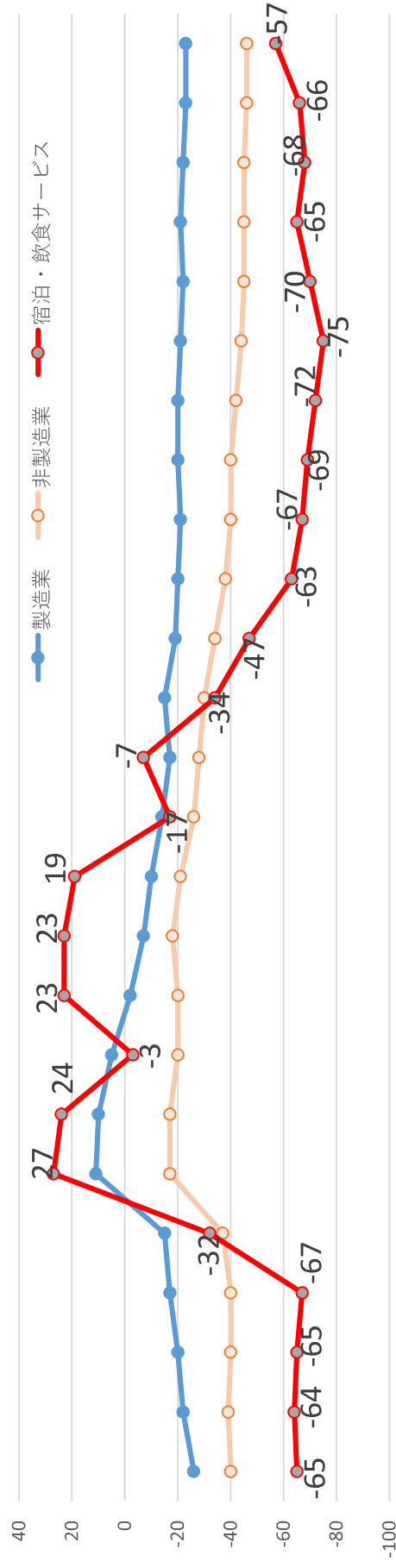
ポイント ⑥

コロナ禍以降、宿泊業では他業種以上に人手不足が深刻な状況
物価高に歯止めがかからず、収益にも影響

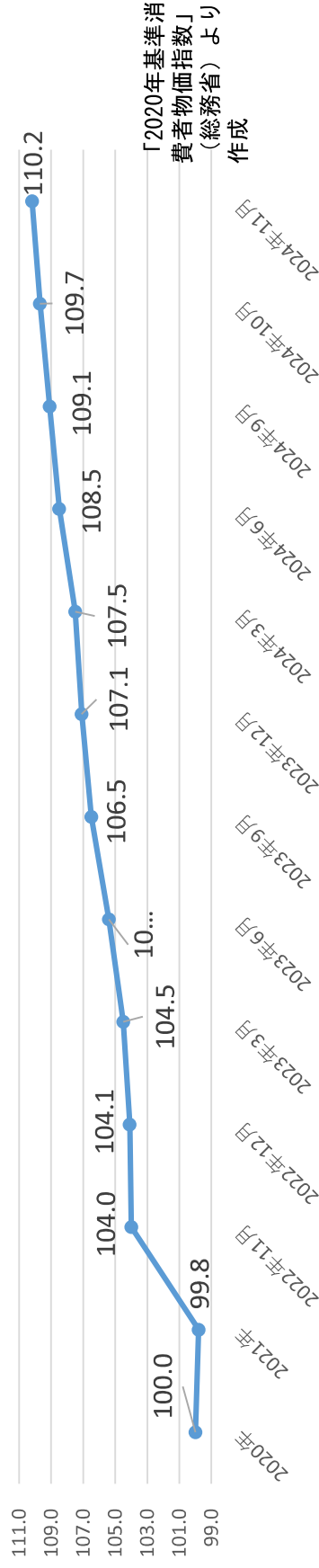
【ポイント】

企業の雇用人員判断D.I.の推移

「全国企業短期経済観測調査」（日本銀行）より作成



消費者物価指数 総合指標の推移(2020年を100として)



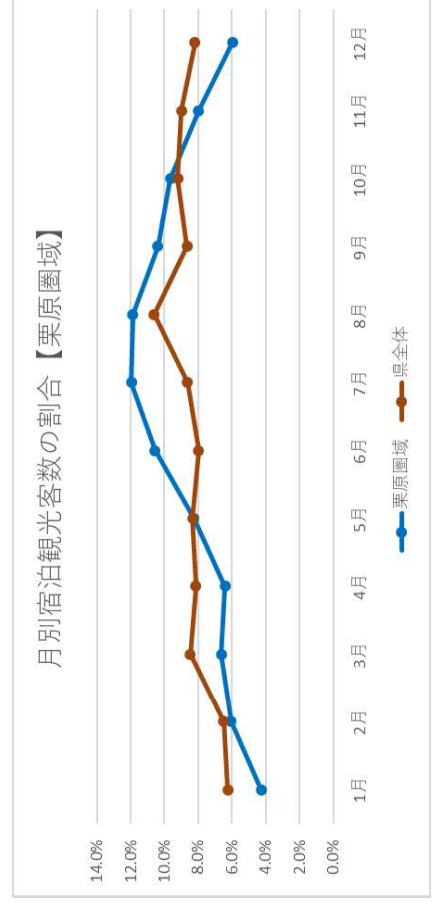
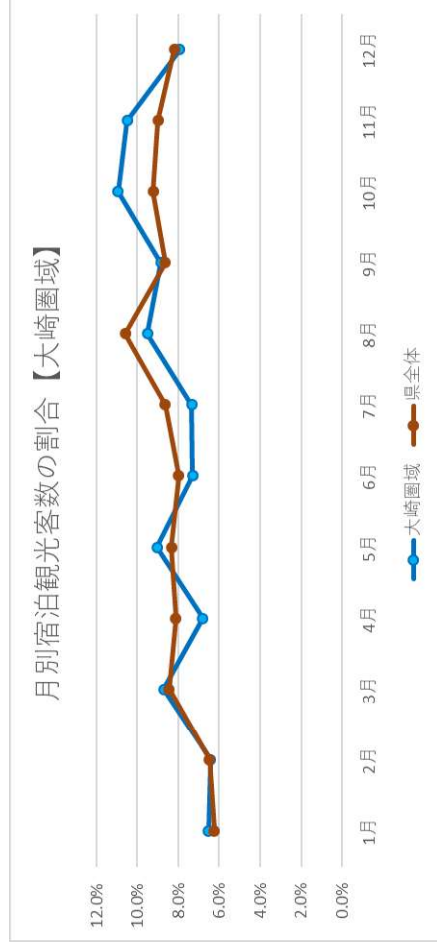
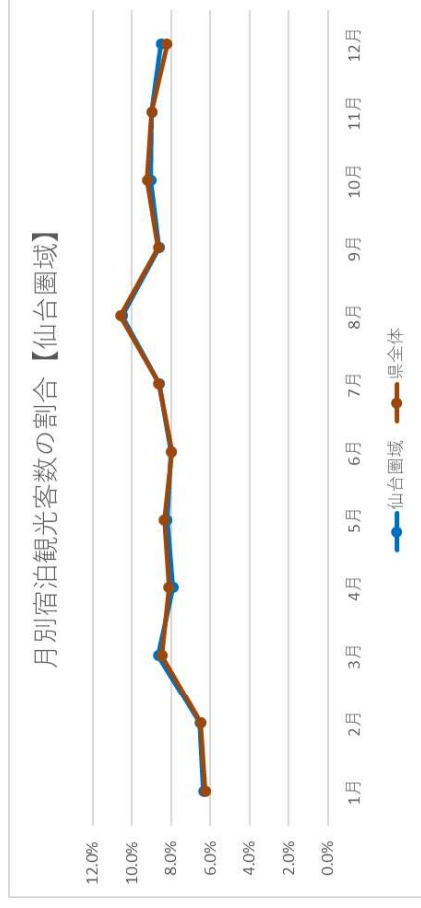
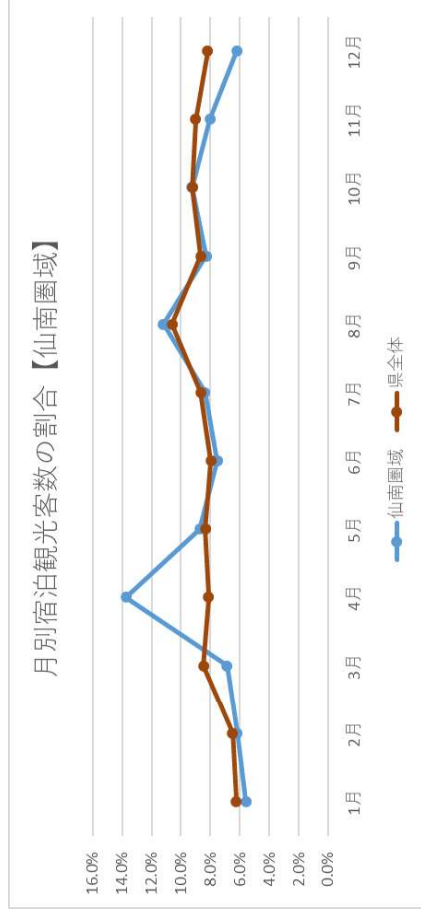
⇒厳しい経営環境の中、足腰の強いしなやかな宿泊業の強化が重要。

1. 観光を取り巻く現状と課題

⑥ 厳しい経営環境

ポイント⑥

観光は繁閑期があり、収益性にも影響。

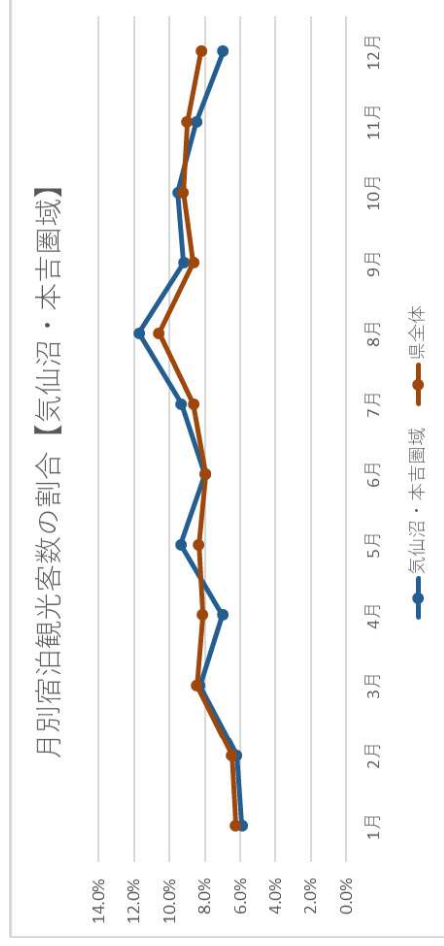
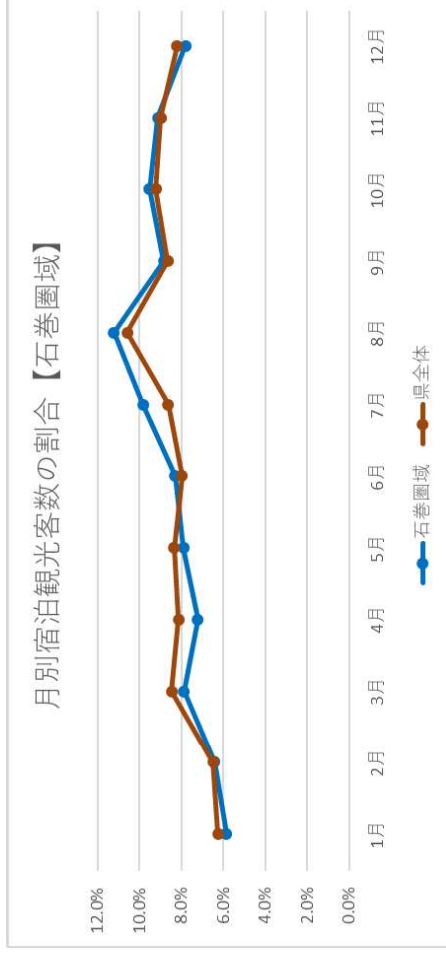
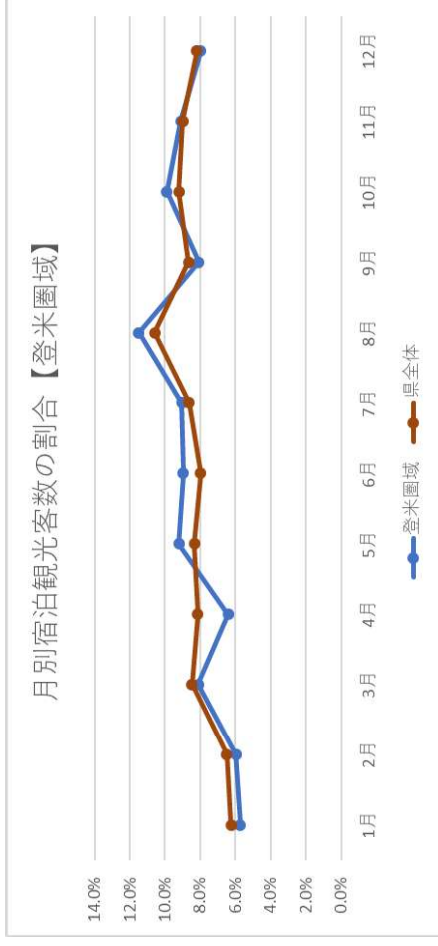


1. 観光を取り巻く現状と課題

⑥厳しい経営環境

ポイント⑥

観光は繁閑期があり、収益性にも影響。



出典：宮城県観光統計概要

⇒グリーンシーズンなどの閑散期に足を運んでもらえるような観光コンテンツ磨き上げや適時適切な情報発信が必要

1. 観光を取り巻く現状と課題

⑦県内観光地における交通手段

ポイント

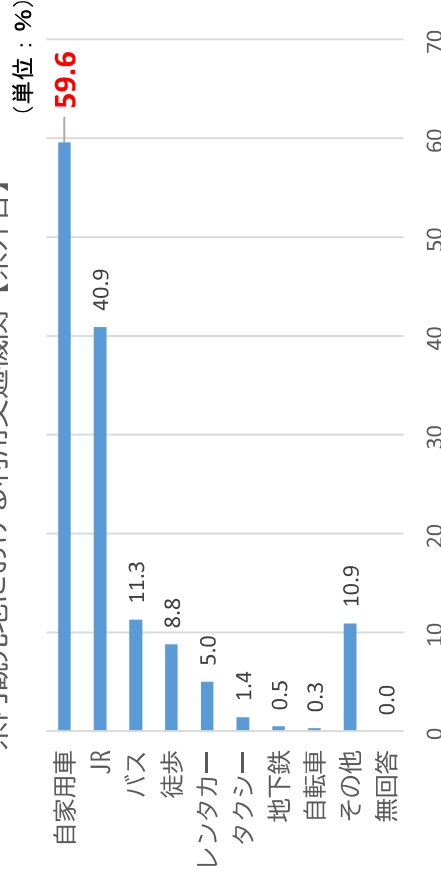
⑦

○県外客の県内観光地における移動手段は、自家用車、JRが多いが、レンタカー、バス、タクシーも必要あり。

○仙台空港からの移動先は県内55%、県外45%であり、県内のうち仙台市内が約8割を占める。

(単位：%)

県内観光地における利用交通機関【県外客】

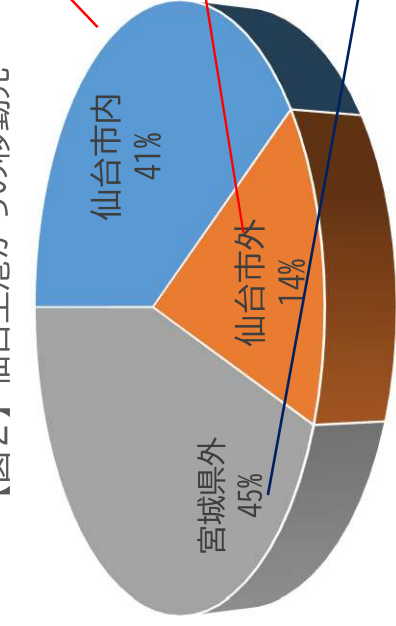


圏域名	交通手段				
仙南圏域	自家用車	63.4	JR	30.2	バス
仙北圏域	自家用車	57.5	JR	44.8	バス
大崎圏域	JR	57.0	自家用車	47.1	徒歩
栗原圏域	自家用車	71.3	レンタカー	2.5	JR
登米圏域	自家用車	97.1	徒歩	2.9	自転車
石巻圏域	自家用車	63.0	JR	42.0	レンタカー
気仙沼・本吉圏域	自家用車	83.7	JR	9.9	レンタカー

【調査内容】 県内13地点で観光地点までの利用交通機関をヒアリング調査

出典：宮城県観光客実態調査

【図2】 仙台空港からの移動先



宮城県内
55%

【仙台市外の主な場所】

- ①松島海岸（松島町）6%
- ②イオンモール名取（名取市）4%
- ③松島駅（松島町）1%
- ④遠刈田温泉（蔵王町）1%
- ⑤蔵王郷リゾート（蔵王町）0.4%

【宮城県外の主な場所】

- ①銀山温泉（山形県）4%
- ②花巻温泉（岩手県）4%
- ③一関市狍鼻溪等（岩手県）3%
- ④山形駅（山形県）2%
- ⑤奥入瀬溪流（青森県）2%

出典：東北観光推進機構 東北観光DMP

⇒県内各地への周遊を促すために、自家用車以外の交通手段を利用する観光客向けの二次交通の充実も必要

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策①

1. 計画期間

令和7年4月から令和10年3月まで【3か年】

2. プラン概要

人口減少社会において観光客の減少が見込まれる中で、**消費額単価の高い宿泊客やインバウンド**を積極的に取り込み、交流人口の拡大や県内経済の活性化を図ります。

主な数値目標

目標指標	R元【実績】	R5【実績】	R9【目標】	ポイント
宿泊観光客数	989 万人泊	943 万人泊 【県内シェア】 仙台圏域77% 他圏域23%	1,104 万人泊 【県内シェア】 仙台圏域75% 他圏域25%	各圏域の実情に応じて、 圏域ごとに目標値を設定します。 仙台圏域から県内全域への送客を図ります。

各圏域の 目標値	圏域	R9(目標)	対R5	圏域	R9(目標)	対R5
	仙 南	75 万人泊	+12	仙 台	830 万人泊	+103
	大 崎	87 万人泊	+33	栗 原	11 万人泊	+2
	登 米	9 万人泊	+1	石 巻	44 万人泊	+2
	気仙沼・本吉	48 万人泊	+8	7 圏域計	1,104 万人泊	

目標指標	R元【実績】	R5【実績】	R9【目標】	ポイント
外国人観光客 宿泊者数	53.4 万人泊	51.5 万人泊	120 万人泊	消費額単価の高いインバウンドの取り込みを強化します。

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策②

戦略プロジェクト・取組の方向性

今後の取組の方向性を以下の4つに分類し、既存財源に加え、宿泊税を有効活用しながら、観光施策の充実・強化を図ります

戦略1 魅力ある観光資源の創出

- 県内宿泊者数や滞在時間の増加、繁閑期の平準化のため、「食」、「自然」、「歴史・文化」を活用した宮城ならではの観光コンテンツの造成を推進するとともに、市町村や観光関連事業者の創意工夫ある取組を支援します。

取組イメージ

- ・市町村毎の独自色を活かした観光地域づくり
- ・アウトドアコンテンツの利用促進（宮城オルレ、みちのく潮風トレイル等）
- ・教育旅行の誘致促進 等



<宮城オルレの新規コース造成>

戦略2 観光産業の活性化

- 観光産業が抱える人手不足や宿泊施設の収益力の向上に向けて、人材確保やデジタル技術の導入等を推進します。

取組イメージ

- ・省人化・省力化設備の導入推進
- ・就職マッチング機会の創出や定着・スキルアップ支援 等



<従業員のスキルアップ研修>

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策③

戦略3 観光客受入環境整備の充実

- 観光地の魅力向上に向けた面的な整備や、インバウンドをはじめとする旅行者の利便性向上のための受入環境整備を推進するほか、空港や駅などと観光地を結ぶ交通アクセスの充実を図ります。

取組イメージ

- ・観光地全体の魅力向上(ライトアップ、廃屋撤去等)
- ・観光施設等のキャッシュレス対応・多言語化の推進
- ・シャトルバス、レンタカー、乗合タクシーによる周遊促進 等



<周遊バスの運行>

戦略4 国内外との交流拡大の促進

- アジア圏からの更なる誘客に加え、欧米豪の新規市場開拓に向け、東北観光推進機構や東北各県と連携したプロモーションを行うほか、アウトバウンドやスポーツツーリズムの推進に取り組みます。

取組イメージ

- ・海外市場別のプロモーションの強化
- ・県内学校の海外教育旅行の推進
- ・プロスポーツと連携した誘客、学生スポーツ大会・合宿誘致の推進 等



<欧州からのインバウンドモニターツアー>

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策④ 仙南圏域における施策の方向

～いいっちゃね、みやぎ仙南！「みやぎ蔵王」ブランドを広域で推進！～

1 数値目標（宿泊観光客数）

令和元年 (実績値)	令和5年 (実績値)	令和元年比	令和9年 目標値
71万人泊	63万人泊	88.7%	75万人泊

【回復状況の分析】

角田市、大河原町の宿泊者数は、ビジネス需要の回復により令和元年の水準まで戻っているが、宿泊者数が圏域で最も多い蔵王町、川崎町、白石市の宿泊施設廃業等の影響を受け、宿泊者数の回復が鈍いもの。

【目標設定の考え方】

各市町の宿泊観光客数を基に伸長率を乗じて算出

令和元年度水準には達していないものの、令和2年度以降は増加傾向にあり、みやぎオールレ村田コースの利用者が伸びていること、また今後新規コースの造成や、蔵王ジオパークの認定見込に加え、圏域内における宿泊施設新築などの要因により、インバウンド観光客や教育旅行客の増加が期待できる。

2 圏域の観光の課題・現状

① 圏域内及び隣接地域への周遊促進

東西南北四方の約60kmに及ぶ広い圏域に、自然・景観、レクリエーション施設、温泉・宿泊施設、歴史施設など、多様な観光資源が点在しているが、各市町の持つ強みを有機的に組み合わせて周遊を促進していくためには、二次交通の充実や山形、福島の隣県を含む広域的な連携強化に加え、それぞれの資源が持つ魅力を引き出し、高める努力が必要である。

② 圏域内宿泊数及び観光消費額の拡大

団体観光客の減少など観光需要の変化もあり、宿泊者数が未だコロナ禍前の水準に戻っていない中、宿泊客は県内客が過半数を占め、宿泊数も1泊が多い傾向にあることから、滞在日数を伸ばす周遊ルート形成や滞在型メニューの充実を図るとともに、昨今の人手不足を踏まえ、宿泊者数の増加だけでなく、土産物など物販の開発や魅力の磨き上げにより、消費者の満足度を高めることで、観光消費額の拡大を目指していく必要がある。

③ インバウンドの誘致強化

「白石川堤一目千本桜」や、「蔵王エコーライン雪の壁」、「樹氷ツアー」、「白石城」、「宮城蔵王キツネ村」など、インバウンド観光客が好んで訪れるコンテンツが多い反面、仙台圏域に宿泊し、日帰りで仙南圏域を観光するケースが多いことから、仙南圏域内に宿泊・周遊してもらうため、タイムリーな情報発信とともに、観光地での多言語表示やガイドなどの、情報提供手段の整備などが必要である。

2. 第6期みやぎ観光戦略プランに基づく観光施策④

仙南圏域における施策の方向

3 圏域の施策の方向性及び取組

① 仙南圏域の象徴「みやぎ蔵王」をはじめとする圏域の多彩な観光資源を活用した広域周遊促進	○ <u>みやぎ蔵王三十六景ブランド創造会議</u>を通じた産学官連携による「みやぎ蔵王」ブランドの確立及び活用 ○ 「みやぎ蔵王温泉郷」や「蔵王ジオパーク構想」、「みやぎ蔵王ハーモニー花回廊」など仙南圏域独自の観光資源と、農畜産物・郷土食・スイーツなどをテーマにした広域周遊策の展開 ○ 山形県置賜地域・福島県東北地域との県境連携推進や隣接地域とのテーマ性を有した観光ルート上の造成 ○ 宮城オルレ村田コース及び新規造成コースなどの新たな地域資源の整備・発掘 ○ 既存資源を含む圏域内コンテンツの整理・磨き上げ及び情報発信
② 旅行需要の変化に対応した宿泊スタイル、滞在型メニューの充実や教育旅行の誘致	○ 多様な泉質を有する「みやぎ蔵王温泉郷」の各温泉地の特色を生かしながら、スリープ（快眠）ツーリズム、ファスティング（断食）ツーリズムなど新たなニーズに対応する高付加価値化の取組推進 ○ 古民家や別荘を活用した「田舎暮らし」体験など、長期滞在やワーケーション受入れ体制の強化 ○ 圏域での自然体験、「宮城オルレ」「仙南サイクルツーリズム」「奥州街道、おとぎ街道」をテーマにしたハイキングなどのアクティビティ体験、「白石城甲冑体験」「こけし絵付け体験」「陶芸体験」などの文化的体験を組み合わせた「アドベンチャーツーリズム」を活用し、『ここだけ（地域限定）』、『今だけ（時期限定）』を前面に出した滞在型コンテンツの磨き上げ ○ 隣接する沿岸地域の「震災遺構」と蔵王ジオパーク構想などが連携した教育旅行プログラムの造成及び誘致
③ 仙南圏域の特色ある観光コンテンツを活用したインバウンド観光客の誘客促進	○ 「桜」、「樹氷、雪の壁、雪、ウインタースポーツ」、「温泉」、「こけし」、「ハイキング」、「アドベンチャーツーリズム」など、圏域独自のキラークンテンツを活用した情報発信のさらなる強化 ○ 古民家や別荘を活用した「田舎暮らし」体験など、インバウンド観光客のニーズや嗜好に合った長期滞在型宿泊の情報発信 ○ ガイドブック、観光施設、SNSなどの多言語案内表示などの情報提供手段の整備 ○ 令和7年11月に本県で開催予定の「アジア・トレイルズ・カンファレンス」を契機とする、オルレなどインバウンド向けコンテンツの魅力発信及び継続的な誘客促進 ○ 旅マエだけでなく、飲食、物販、観光、イベント、交通など旅ナカ（現地）で必要な情報を提供するための、SNSや店内POPなどを活用した情報発信

3. 第6期観光戦略プラン期間中の取組イメージ【仙南圏域】

施策① コンテンツ磨き上げ・創出のための体制強化

(例) 仙南圏域の誇るコンテンツ

・蔵王御釜 ・一目千本桜（春） ・みちのく公園 ・紅葉（秋） ・雪、樹氷（冬） ・蔵王ジオパーク ・白石城 ・H2ロケット 実物大模型	・酒蔵めぐり ・そば ・温麺、おくずかけ ・スイーツ ・ブランド和牛、豚肉 ・チーズ ・そらまめ ・とうもろこし ・大根、梨 ・梅、柚子
独自の 景観	食
・甲冑体験 ・こけし絵付け ・みやぎオウルレ ・トレイルラン ・サイクリング ・ツーリング ・アドベンチャー ツーリズム ・SUGOカート運転体験 ・動物ふれあい ・田舎暮らし体験	宿泊 ・みやぎ蔵王温泉郷 ・温泉宿のおもてなし ・キャンプ ・貸別荘や武家屋敷、 古民家一棟貸の民泊 ・サウナ
体験	宿泊

-
- ・『ここだけ（地域限定）』『今だけ（時期限定）』の滞在型
コンテンツの磨き上げ
 - ・各コンテンツの有機的な組み合わせ
 - ・新たなコンテンツの創造

コンテンツの磨き上げに必要な支援策は？
これらを推進するために必要な体制は？

施策② 圏域内周遊性向上のための二次交通対策

- (例)
- ・最寄り駅からの交通手段が少ない
 - ・バス、タクシー事業者の減少
-
- ・既存のフリーきっぷ等の周知広報
 - ・レンタカー会社と連携した割引キャンペーン

当圏域の交通アクセスの課題は？
その解決方法は？

施策③ 快適な旅行環境のための受入環境整備

- (例)
- ・観光人材の確保が難しく、不足感がある
 - ・ここしか食べられない食、おすすめるのお土産・スポットなど、
地元の人のおすすめるを知りたい
-
- ・宿泊事業者などの人手不足解消に向けた取り組み
 - ・ガイドブック、SNSの充実、多言語案内表示

観光人材の確保・育成で必要なことは？
旅行者の満足度を高めるためには？

施策④ ターゲットを意識した効果的なプロモーション

- (例)
- ・温泉 郷土食 蔵王御釜 歴史 キャンプ
 - ・宿泊者への特典
-
- ・ゴールデンルート以外の日本の魅力を求めるインバウンド層
 - ・温泉巡り・ドライブ・景勝地の散策やアウトドアが趣味
 - ・管内優待券等の配布

当圏域のコンテンツを好むターゲットは(国内・国外)？
コンテンツの認知度を高めるには？

4. 宿泊事業者の皆様からの声を踏まえた宿泊税活用施策イメージ



事業者の皆様からの声

宿泊客が減っており経営が厳しい
日帰り客が多い
地域の賑わいが失われている

交通アクセスが悪いので足を運んでももらえない

スタッフがなかなか定着しない
人手不足で稼働率を上げられない

新たなお客さんに泊まってほしい
地域のこんな魅力を感じてほしい



施策の方向

求められる対応

その地域に來たい、過ごしたいと思える地域の魅力を高める必要がある

その地域に円滑に足が運ぶことができる仕組みづくりが必要

人材育成のためのサポート、やりがいを感じられる組織体制支援が必要
人材確保のための取組が必要

地域の魅力を広く発信できる仕組みづくりが必要

魅力ある観光コンテンツの磨き上げ・創出のための体制づくり

仙台からの送客・周遊性向上のための二次交通対策

快適な旅行環境のための受入環境整備(人材育成・人材確保対策等)

ターゲットを意識した効果的なプロモーション

5. 御意見を頂戴したいこと

施策1 観光地域づくりを行う地域への支援

当圏域で観光地域づくりを進めるに当たって、必要とする支援策はありますか？

施策2 仙台からの送客・周遊性向上のための二次交通対策

当圏域に多くの旅行者に訪れていただけるようにするために必要となる移動手段や支援策は何ですか？

施策3 快適な旅行環境のための受入環境整備

当圏域での受入環境を充実していくに当たって、重視する視点は何ですか？
宿泊業界にとって喫緊の課題である人手不足、人材育成のために求める支援策は何ですか？

施策4 ターゲットを意識した効果的なプロモーションの展開(国内・インバウンド)

当圏域にある観光コンテンツをどういったターゲット層(年齢層、性別、居住地等)に訴えたいですか？

上記1～4のほか、是非、皆様からの現場感に基づいた
アイデア出しをお願いします！！

5. 御意見を頂戴したいこと

以下の3つの視点も参考に御意見をお願いします。

【視点①】地域の観光業が抱える課題への対応・地域の魅力創出に向けた施策など“**地域**”視点での検討に加え、隣接圏域等との連携による“**広域周遊**”の視点を踏まえ施策を検討

【視点②】宿泊税を納める“**納税者（宿泊者）**”の視点で**有益な使い**
途施策を検討

【視点③】“**地域経済活性化**”の視点で、滞在時間が長く、消費額単価が高いインバウンドや宿泊観光客の増加に向けた施策や高付加価値化に向けた施策を検討